

アステリアの使命は「つなぐ」こと

私はいま、企業向けのソフトウェアを開発・販売するアステリアを経営しています。弊社の特徴を一言で言えば「受託は一切しない」。日本の企業向けソフトウェア開発は、注文書をもらって指示通りにつくって納める受託が圧倒的に多いのですが、私たちは自社で設計、開発し、世の中に「どうですか」と差し出します。100社、1000社、1万社と使われるほどに価値が高まる世界で勝負をしています。アステリアの強みは大きく2つあり、ひとつめは「ノーコード」です。プログラムを書かなくてもコンピューターを動かすことができる革新的な技術。そしてもうひとつが「つなぐ」領域で、私たちはつなぐことが得意な会社です。システムとシステムをつなぐ。スマホとつなぐ。センサー、カメラ、ロボットとつなぐ。世の中は便利になっているのに現場が疲れていくのはなぜか。答えは簡単。点が増えすぎているから。点が増えると流れが止まり、止まると人が苦しくなります。だから、つなぐ。いわば血管みたいなもの。詰まったら終わりを意味するので絶対に詰まらせない。だからWebサイトのトップに「ソフトウェアで、世界をつなぐ」と明確に示し、その役割を宣言しているのです。

拠点は東京、大阪、名古屋、熊本、軽井沢。海外は販売拠点のシンガポールと投資拠点のアメリカ、開発拠点の中国です。アステリアの使命は「つなぐ」こと。つなぐためには世界の流れをつながり」として捉え続ける必要があります。国内で完結した瞬間に速度が落ち、視野が曇る可能性がある。そこで世界の空気を吸う文化を社内に創っています。しかし社員数は140名、

東証プライム上場企業の中でも最小規模。私は今を規模の時代ではないと考えています。昔は組織も社会もピラミッド型でした。階層・規律があつて統制される。でもこれからは自律・分散・協調です。自律した小さなチームが協調してプロジェクトを進める。アステリアはこうした時代を前提とした「つなぐ」役割を担っています。だから自分たちが肥大化したら言っていることとやっていることが違つてしまう。私たち自身がプロダクト思想の証明であるべきだと考えています。主力製品が「ASTERIA Warp」。導入社数は1万社以上、19年連続で国内シェアNo.1のデータ連携ツールとして評価されています。ただしこの数は「本数」ではなく「社数」で、複数導入頂いている会社も社数で言えば1社。だから純粹に1万社以上の企業に使っていたらいてる計算になります。このWarp以外にも、ノーコードでアプリ開発、情報共有、IoT、ロボット連携など複数のプロダクトを展開しています。名前は違つても芯は一つ。「つなぐ」。点をつなぐと線になり、線をつなぐと流れになり、文字をつなぐと言葉になるように、つなぐとは生み出すこと。システムとデータをつなげる技術で企業の成長と現場の前進を加速させる。それがアステリアの存在意義なのです。

中3のときに 出会ったのが「マイコン」

実家はみかん農家。3人兄弟の長男として1963年に熊本県で生まれました。新しいものが大好きな父で、テレビ・ラジオが家に來たのも村の中で1、2を争う早さでした。小さいころの私は、父が買ってきた電化製品を分解して中を見るのがすごく好きでした。真空管の時代ですから中を

世界の流れを“つながり”として捉え続ける

